

部会名	令和 2 年度 第 1 回 障がい児部会		
日 時	令和 2 年 8 月 31 日（月） 14：00～16：00		
場 所	板橋区役所 北館 5 階 504 会議室		
参加者	出席者 17 名（委員 13 名、事務局 4 名）		
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）	傍聴者数	2 名

○ 報告事項

（１）サポートファイルの作成について

長年課題であるサポートファイルについて、昨年度は様々な関係機関より意見を聞き、今年度は作成に向けて意見を反映させていく段階。しかし、新型コロナの影響で今後のスケジュールとして、令和 2 年度は会議の開催自体が難しい状況。現時点では、各事業所や内部で、小さいところからそれぞれの意見を聞き、できるところを進めてことを考えている。

（主な意見）

- ・昨年度に現実的になったところで、頓挫するのは非常に残念。今年度中は難しいという話であるが、リモートでもできないということはない。形あるものにして欲しい。
- ・作成にあたり、ライフステージごとに話を聞かなかで、就学前と就学時で、漏れがないように対応して欲しい。

（２）発達障がい者支援センターの進捗状況

工期等の遅れはない。秋頃開所予定。今年度 4 月以降は、関係機関にはパンフレットを渡し、ニーズ調査等をしている状況。

（３）重度心身障害・医療的ケア児等に関する進捗状況

令和 2 年 3 月 27 日に第 1 回重症心身障がい・医療的ケア児等会議の予定をしていたが、新型コロナの影響で中止となった。今後のスケジュールとして、令和 2 年 9 月 2 日内部連絡会を開催し、11 月頃に改めて会議を開催予定。

○協議事項

（１）板橋区障がい福祉計画等の策定方針について

事務局より福祉計画等の説明を行った。

（主な意見）

- ・相談支援事業所で未就学児を受け入れる事業所が少ない。未就学児は保健師が関わることも多く、相談支援事業所の立ち位置が不明瞭なところもある。
- ・相談支援事業の煩雑な事務作業の見直しを行い、負担の軽減をして欲しい。例えば、区内転居をした人に対し、改めて計画を再作成しなければいけないが、それは福祉事務所間で共有することで対応してもらえないか。

⇒福祉事務所では、転居先で支給決定をするうえで、必要な書類として提出を求めているところではあるが、必要書類について改めて福祉事務所間で話し合いをし、精査していきたい。実際の支援に時間を注力してもらえるように、簡略化できるものは簡略化していく。

- ・保育所訪問支援については、既に板橋区で行っている保育サービス課の巡回訪問の実績もふまえて考えていく必要がある。
- ・保育園や幼稚園で障がいだからという理由で受け入れられないとなった場合、子ども自体に問題が

あるのか、もしくは受け入れ先に問題があるのか、慎重に対応する必要がある。障がいだからという理由で、すぐにサービスに繋げるのではなく、受け入れてもらうための話し合いやよりよい方針を考えてもらうなど、受け入れ先に働きかけることも大事である。

- ・近年、放課後等デイサービスが増えたことで、あいキッズで過ごすことが難しいという判断になったら、すぐに放課後等デイサービスの場所に移るということに問題を感じている。共生社会という理念のなかで、今まで地域の子ども達と過ごしていた障がいの子ども達が、地域の子ども達と過ごす環境がなくなるのは、やはり問題である。
- ・保育と教育の連携が課題である。教育現場の方では、福祉の情報が入らない、知らないという環境。切れ目のない支援という理念のもと、例えば発達ネットに区立学校の教師の方々を呼ぶなど、知ってもらう機会をつくり、支援する側される側の意見を現場に伝えて欲しい。
- ・医療的ケア児の発達支援はどのように考えているか。
⇒新たに事業所や医師の配置をすぐに対応することは難しい。ニーズ調査を行い、実績も踏まえて今ある障がい児発達支援の事業所でどのように対応できるか検討していく。

○その他【新型コロナの感染症対応の現状・課題等に関する意見交換】

保育

- ・保育従事者からの問い合わせが多かった。休校の体制づくりが、やはり大変な状況。行事が縮小・中止になっており、子どものケアが課題。要支援、巡回訪問は感染対策をとりながらすすめている。

あいキッズ

- ・要支援児の巡回は対策しながらも実施している。
- ・サンサuntime事業は中止している。緊急事態宣言の時は、学童部分も学年を絞っていたが、現在は学校再開とともに再開している。
- ・コロナの陽性がでて、学校が閉鎖になれば、あいキッズも閉鎖している。閉鎖期間の利用料は日割り計算している。
- ・衛生面では、マスクの着用、手指の消毒、換気の指導をしている。

学校

- ・8月25日より2学期が再開。行事は縮小、自粛。夏休みも縮小。
- ・感染者が出ると休校になるので、感染者が出ないように対応していくしかない。

健康福祉センター

- ・保健所に保健師が感染対策の応援に行かざるをえない状況。人が足りないなか苦勞しながら対応している
- ・コロナの影響で、(児)健診もしばらく休んでいたが、少しずつ再開している。4ヵ月健診は個別健診になり、Dr.にお願いすることになったが、24ヶ月遅れで結果がでてくるので、タイムリーな発達チェックができなくなっており、フォロー体制がとり難い状況となっている。
- ・コロナの優先順位が高く、兼務せざるをえない。地域が手薄になっている状況を感じている。来年度はコロナ体制を含めた組織改正を検討していく必要がある。

児童発達支援

- ・障がい児は変化に弱いため、保護者の負担が大きいと感じている。緊急事態宣言中は1日30人定員のうち10名程度が通園。その他は在宅支援。在宅でも家庭状況はよくわかるように取り

組んでいた。

- ・就学前の子どもは、小学校の見学もできないため、不安が強かったが、親の会が学校の情報を聞ける説明会を開催してくれた。先生達の勉強会も開催できた。家族支援の大切さを感じた。

特別支援学校

- ・休校にはならず、小さな集団に分けて受け入れていた。コロナ状況下で一番心配なのは保護者。どうやってサポートしていけば良いかが課題である。

児童館

- ・緊急事態宣言中は休館していたが、現在は1時間の滞在時間で利用が可能となっている。ほっとプログラム（発達に気になる子ども向けの親子プログラム）も9月から再開することになった。親御さんのフォローが課題。

子ども家庭支援センター

- ・コロナの影響で3月以降、相談総件数が増えている。宣言中は、普段連携を図って情報共有できた要見守り児の情報を、保育園、学校などから情報が得られなくなったので苦慮した。
- ・コロナで家族が感染したらどうするか、休校・休園に対応できない等の問い合わせが多かった。
- ・保護者の悩み事が多い中、保護者のフォローのために利用できる施設が限られている。
- ・精神障がい者の手帳所持数の伸び率が高いが、保護者も精神疾患の方が増えているという実感がある。コロナの状況下では不安定になるなど、お子さんの様子が変わっていると感じる。この状況が収束した後のフォローの必要性を感じる。計画に盛り込んでもらえたら。区内で児童精神に関する入院先や、相談先が少ない。充実して欲しい。

福祉事務所

- ・親御さんからの問い合わせで、自分がコロナになったら子どもの預かり先はあるのか、という問い合わせが多かった。子どもは濃厚接触者となるので、障がいの施設で受け入れ先がないのは実情。また、コロナだからという理由で、在宅の福祉サービス支援を受けさせたいという要望も多くあったが、通わなくて良ければそれで良いのかというのは教育としても支援としてもどうなのかというところを感じた。

療育センター

- ・生命に関係する以外のリハビリは縮小、外来の受診も中止していたが、現在は再開している。気がかりのある家庭については、対面診察を継続した。他に電話相談やリモート研修など実施。集まってもできなくても、できることが増えるように対応していきたい。子どもにとってプラスな支援を考え、訪問リハビリなど自宅でできることと通所でできることを融合していけたら良い。